

第7回

「離・民主主義」と「破・資本主義」

「政権交代」となった。「やっと！」だ。日本人は、ほとんどが「政治」をあきらめてきた。首相が次々と政権を投げ出してしまふ国家なんてありえなかった。そんな国家に自分があること自体にどれほどイラついていたことだろうか。

私は自分のオフィシャルブログのタイトルを「資本主義からの逃走」としているが、控え過ぎたと今では思っているくらいだ。

正しく言うならば「資本主義の完全なる終焉」だ。そして民主主義すら歴史の文脈から外れてきたことに気づくべきだと考える。

人類は、民主主義を勝ち取るためにどれだけの血を流してきたことだろうか。

しかし、現在では民主主義自体の脆弱性さえ露呈し始めてきた。従って政権交代なんぞで、政治が変わるのではない。今度の政権も、資本主義と民主主義を肯定しながら、その存続に疑いすら持たないのはおかしい。だから、わが国の戦略の創出は不可能であると私は考えてしまう。

私は、海外の代表的なコンピューターソフトメーカーのあるイベントで、「コンピューターが消える日」と題したら大変なことを発言しているように思われてしまった。

本心は、すでにコンピューターがハードとソフトだけの世界観に存在しなくなるという予感であり、その背景には資本主義と民主主義をイノベーション(革新)するためのコンセプトとして持ち出しただけのことである。

イノベーションを発案したヨーゼフ・シュンペンターが1927年、大恐慌直前に「資本主義の崩壊」までを論理化していた。それほど資本主義への大きな抵抗と反撃は、社会主義や共産主義的なものであった。そのバイブルは、カール・マルクスの「資本論」である。

どれだけ多くの青春がこの「資本論思想」という理想に洗脳されて陶酔したことだろうか。しかし、私は冷静というよりも冷徹に読み飛ばしてきた。それでもまた資本論に向かっている。それは、もう一冊の「数学に関する遺稿」(岩波書店)と合わせて読了しておくべきだという持論がある。つまり、主食である資本論には、事実、著作したエンゲルスになぜ、マルクスは数学的思考を伝えたのか。このような副食も食べないと本当に読み切ったことにはならないはずだ。

「遺稿」と日本では翻訳されたが、実際はマルクスがエンゲルスに対して、数学的思考を資本論の著作のために書き残したものだ

た。話が堅くなりそうだから、私のブログを読んでほしい。

私も「破・資本主義」と「離・民主主義」を、モノ=人工物のデザインで創出していきたくて意気込んでいるだけなのだ。

肝心なことは、資本論で非難された資本主義と民主主義の両方の支柱、あるいは基軸、それはキリスト教あるいはキリスト教義であった。わが国は、政教分離という鉄則を信じて疑わずに公式としてきたが、わが国の仏教と神道という宗教観を再度検証して、政治にも組み込んでいくべきだと私は考えている。でなければ、あの「靖国問題」も「自虐史観」も、G6やG7の先進国家の中では、宗教哲学的な倫理が欠如した国家の発言など信頼されるわけがないのだ。

G=グループとされた先進国家は、すべてがキリスト教義の理論化によって武装化している。仏教の思想や論理などはまったく無視されている。仕方ない話だ。神道界も仏教界も、宗教法人というそれこそ幕末の公家社会のごとき権威喪失など平気だと自認しているような集団になり果てている。

民主主義の背景には、キリスト教義としての理想が3つある。「自由」「平等」「愛」で



Peace-Keeping Design  
http://www.design.frc.eng.osaka-u.ac.jp/PKD/



「Doctor's Watch」Peace-Keeping Design

ある。それなら、この3つの裏側を見れば、「自由は拘束」「平等には差別」「愛には暴力」が磁石のごとく電磁力の相互作用が働いている。民主主義で拘束し、民主主義の下に差別が激しく残存し、民主主義を護るという暴力に核兵器が明確に乗っかっている。

民主主義という幻想と謀議を、わが国は、敗戦時にそれを飲み込まされてきただけである。政権交代によってそれを吐き出してしまふべきだと私は主張しておきたい。そして、この選挙期間中には、世論の対象から外されていたことがあまりにも多くあった。タレントの薬物罪状や殺人と思える芸能スキャンダルの報道や選挙の話題でかき消されて隠匿されてしまったことは多い。

私はいつも忖んでしまう。歴史、特にわが国の歴史は正道を消去してきたし、それが伝統文化のそれこそ美学の下敷きになってしまう大きな哀しみの民族であったのだ。だから、少子化と高齢化で、日本民族はいずれ消滅してしまうだろう。

私は、20年ぶりに六本木の夜の街を車椅子で散策した。

明らかに品格を汚濁している街並みは、む

ごらしい夜の景観になっていた。まともとは思えない人々がいっぱい闊歩している。ところが、彼らの弱々しい眼力では、私の直視には耐えられないらしいことも確認した。つまり、品のない人々はキライなのだ。

さて、「BOP」をご存知だろうか？

BOP=Bottom of the Pyramidと言う。地球上の人口はやがて70億人になることは見えてる。現在は68億人だ。その頂上に1億人がある。その人々をピラミッドの頂点とすると、年収が200万円が底辺となる。その下に23億人で底辺が年収20万円。そしてどんなに働こうが1日1、2ドルの人々が45億人もいるわけだ。つまり資本主義と民主主義はたった1億人のために存在していたことに気づかなければいけない。67億人は、決して先進国家のような文明的な恩恵は皆無だとさえ言い切れる。先進国家のG6あるいはG7が何をいばったとしても、地球をわがものにしてきたのかを見直す必要があるのだ。

CO<sub>2</sub>、エネルギー問題、水不足、食糧飢饉、感染症の増大という問題解決に、資本主義と民主主義が正道ではなくってきた、ということである。政治や政権交代で、地球全体は

変えられないことだけは確かだ。

私は言い続けたい。「デザインが世界を変える！」と。

デザインこそ、理想主義を実現する唯一の手法として、PKD=Peace-Keeping Designを提案していくつもりだ。

だから、この資金集めに、20年前の私の作品「HOLA」をiPhone用ソフトとしてApp Storeで販売を開始した。これはおそらく、リアルな時計をiPhoneに組み込んだ最初の新しいプロダクトデザインの実例になってくれるだろう。

同時に「Doctor's Watch」も、iPhone用ソフトとして公開している。15回の脈拍で、時計に触れば1分間の脈拍数がわかるというものだ。これは私自身の心臓チェックに必要なソフトでもある。

腕時計を生産するよりも、iPhoneに組み込んで使えるプロダクトデザインの手法を見つけた。

いづれもPKDの活動資金にしていこうささやかだが、私なりのデザイン活動であり、脱・資本主義と離・民主主義に向かう手立てにしていきたい。